

ヤギ飼育における有用性

その2：体験活動の視点より

愛知ヤギ農場

門田まさみ

はじめに

前号では、私が所有する1,000坪の畑を除草する際に比較検討した実例として10の除草方法とイニシャルコスト&ランニングコストを比較したメリットとデメリットをご紹介いたしました。

結果的に当農場ではヤギが除草隊として大活躍しているわけですが、これも該当地の規模やロケーションによっても違うため画一的な答えではありません。ましてや自家用としてのヤギ除草か事業用としてのヤギ除草かによっても考え方や方針は大きく異なります。

そのため主体者(飼育者)は、「何が目的?」「何を重視するの?」を決める必要があります。ヤギに限らず「目的」も「想い」もない飼育は、命を預かる者としての資格はないでしょう。どのような形であれ「人と動物が幸せを感じる社会」を実現できたら素晴らしいと思います。

ということで今号は私や愛知ヤギ農場は、「何を目的に」「何を重視して」ヤギを飼育しているのかをご紹介させていただきます。

ヤギとの思い出

まず、私がヤギを飼おうと思った理由は自分自身の原体験にあります。

保育園から小学校に進学して環境の変化に強い不安や心細さを感じているころに出会った近所の真っ白なヤギが私に大切なことをたくさん教えてくれました。

例えば、自分が苦手だった緑色の野菜が美味しいことや言葉はわからなくても心が通じること、そして命(寿命)には終わりがあってお別れすることの悲しさも教えてくれました。

あれから40年が経過して自分が大人になって子供ができたとき、ふと「ヤギが教えてくれた大切なことを自分は子供に教えられるだろうか?」という疑問が湧きました。

考えた結果、私が出した答えは「ヤギにしか教えられないことがたくさんある!」でした。もちろん段階としては、他の動物や非飼育(動物園での触れ合いのみ)という選択もあったと思いますが、私がヤギから教わった大切なことは、1にも2にもヤギを飼わないと得られないことから決断に長い時間は要しませんでした。

ヤギ飼育の目的

世の中では自分の知らないことを知っている存在や大切なことを教えてくれる存在に対して畏敬の念をもって「先生」と呼びます。

私がヤギを飼育する目的を問われたら迷うことなく「父親として子供たちに大切なことを教えてくれる先生（ヤギ）を家族に迎えました」と答えます。

また、愛知ヤギ農場として活動することになった現在でも目的の方向性は変わらず、たくさんの方たちに「ヤギの魅力や偉大さを伝えたい」「叶うのであれば家族として迎え入れてほしい」という想いをもって活動しています。

体験活動の効能

どのような動物であっても関わることで学びや発見はあると思いますが、それでは実際に動物との触れ合いや飼育によってどのような効能があるのでしょうか？

ここでは公的な組織として、青少年の体験活動を企画・運営する独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施したアンケート調査の結果を引用しながらご紹介したいと思います。

※ 国立青少年教育振興機構は、青少年自然の家などに代表される体験活動の企画・運営だけではなく、幼児期から義務教育修了までの各年齢期における子供のころの多様な体験を通じて得られる資質・能力との関係性を調査しており、どの年齢期にどのような体験が重要になるのかを研究しています。

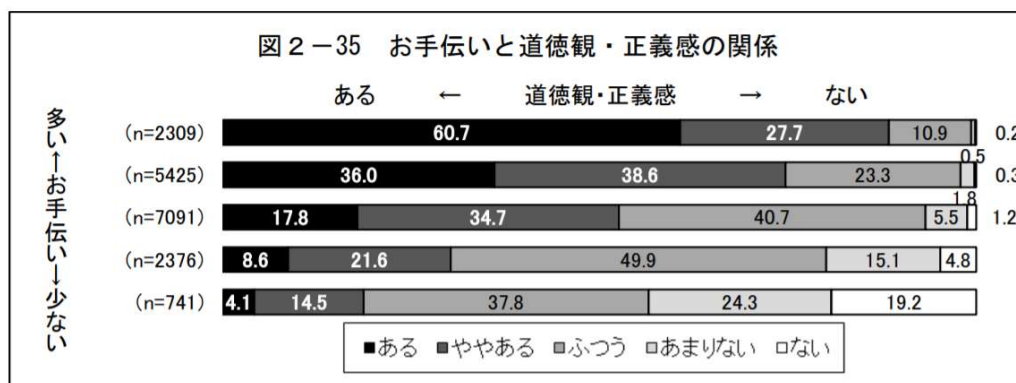
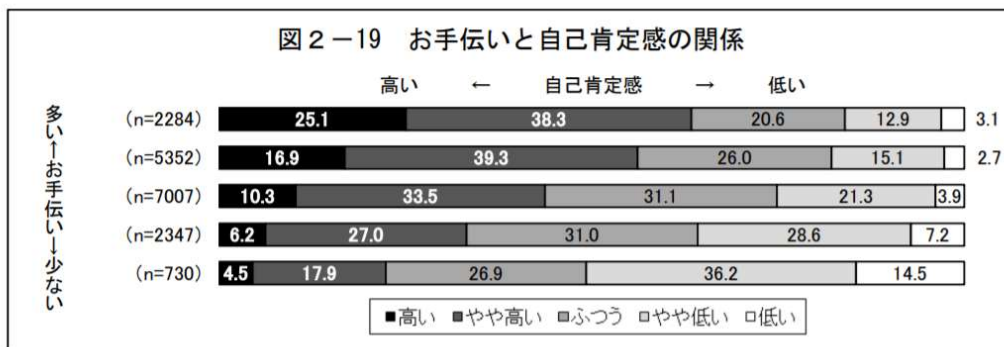
2010年の報告書「子どもの体験活動の実態に関する調査研究（子どもの頃の体験は、その後の人生に影響する）」では、成人と青少年（高校2年生）を調査対象として、自身が子供のころに体験したことがらと資質・能力との関係性を分析しています。

その中で興味深い点として、成人と青少年がともに小学生時代に「動植物とのかかわり」によって得られた資質・能力が類似していることです。

調査対象者	成人	青少年（高校2年生）	
体験年齢 資質・能力	小学校低学年	小学校低学年	小学校高学年
自尊感情			
共生感	動植物とのかかわり	動植物とのかかわり	
意欲・関心		動植物とのかかわり	
規範意識	動植物とのかかわり	動植物とのかかわり	
職業意識	動植物とのかかわり		動植物とのかかわり
人間関係能力	動植物とのかかわり		
文化的作法・教養	動植物とのかかわり		動植物とのかかわり

出典：独立行政法人国立青少年教育振興機構（2010）「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書より筆者加工

また、2018年改訂の「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査）」では、「ペットの世話」を含めたお手伝いなどの体験が豊富な子供は自己肯定感と道徳観・正義感が高くなる傾向がみられました。



同調査では、乗馬や乳しぼりなど「動物とふれあうこと」について一定の体験者がいることを示していますが、減少傾向にあることは否めないでしょう。

動物とふれあうこと	保護者への調査 小学校1～6年生	本人への調査 中学校2年生	本人への調査 高校2年生
何度もした	6.2%	8.1%	5.6%
少しした	29.2%	21.9%	16.7%
しなかった	61.5%	68.9%	77.0%
不明	3.2%	1.0%	0.6%

出典：独立行政法人国立青少年教育振興機構（2014）「青少年の体験活動等に関する実態調査」より筆者加工

家族が増えれば大変なこともあります。我が家の子供たちはヤギを飼育する前と比べて心が豊かになったと思います。ぜひ一人でも多くの方に、この体験をしてもらいたいです。

愛知ヤギ農場
門田まさみ